夏期児童対策をおえて—学生の意見から—

やめよう「あづけっぱなし」子供は三池の貴重な財産

今年の夏期児童対策は、七月二十五日から八月八日まで九ブロック三百二十一名の小・中学生をあつめておこなわれた。また、これに参加した学生は東京から九州までの諸大学のべ約五十名にのぼり、三池労組の恒例の行事として子供と親、子供と地域運動、三池と学生をつなぐ大きなきずなとなりつつあることが証明された。

八月八日午前十時からおこなわれた総括会議では、この二週間三池の子供と地域にふれて、また学生から率直な反省と意見が出された。三池労組ではこれを契機に、各地域で総括運動をおこし、地域闘争のあらたな確立をはかるが、まず学生からの意見を紹介しよう。

目立った家庭での話し合い不足

勝立地区

勝立地区は三カ所にわかれて学習会をもったが、参加者は小学生六十九名、中学生二十三名であった。まず学生の方の反省としては三池についての予備知識がたりなかったこと、夏期児童対策の位置づけが最後まで不明確であったこと、などであった。

子供たちに接して感じたことは一人ひとりの参加者に夏期対策の目的がどの程度浸透していたかといえばうたがわしい。ほとんどの家庭で子供と親との話し合いがもたれていないようだ。

開会総会のときに主婦会の事務局長さんは「ややもすれば見落しがちな主婦会としての子供の教育活動を前進させる契機にしたい」といっていたが、実態は十分ではないようだ。

子供は明るく、よく組織的な訓練をうけていて、東京ではみられないような子供たちだ。

来年からは企画の中にも子供の意見を反映させてもらいたい。中学生の中からは、第二組合の子供にも呼びかけようという声もあったので、参考にしてもらいたい。

子供たちとどろまみれになつて、学生さんたちは夏期児童対策にとりくんだ（四山地区の学習会）

これ以後の子供対策を

新港地区

（参加者＝小学生二十九名、中学生十五名）

この地区の問題点は、つぎのとおり。

一、夏期対策の目的のとらえ方がまちまちである。勉強をみてくれればいいという人、共同生活の訓練をしてくれという人、遊んでくれさえすればという人など、組合員・主婦会のとりくみが統一されていなかった。

二、運営上の問題は、小学生については一年生から六年生まで一緒に面倒みるのは技術的にムリである。中学生については、クラブ活動、アルバイト、受験勉強といろいろな方面に一人ひとりが参加しているし、学力差もある。このような生徒たちへの対策には、自主的なグループをコツコツつくっていく努力をする以外にないだろう。勉強みてくれでは解決にはならない。

三、生徒の名簿も不徹底であり、もっと地域分会や主婦会活動と関連づけた取り組みがのぞまれる。

四、この対策以後のことがより重要である。地区ごとに子供の育成のための具体的な運動を推進してもらい、われわれの二週間の対策もその手助けにするという意味をもたせてもらいたい。

新港地域には育成会があるが、実際には生徒、児童の指導の努力は不十分のようだ。学生会の運動をいかに助長していくかということは、組合にとっても主婦会にとっても重要であろう。

スケッチ大会で

民泊して日常的ふれ合いがほしい

宮原地区

（参加者＝小学生二十二名、中学生四名）

一、子供たちのうけとめ方からいえば、まず目的がバクゼンとしていたこと。これは最後までスッキリせずじまいだった。子供を含めて家族会議などでどのように話し合われてきたのか疑問である。

二、主婦の内職によるカギッ子対策という面は成功したと思うが、学生が三池にもってきた問題にこたえるような場所や機会が少なかった。

三、技術的には新港地区と同じなやみがあった。

四、昨年は地域に民泊して、三池の生活に直接ふれながら二週間をすごしたので、子供たちとも本当にまみれてすごすことができた。しかし今回は本部泊りだったので、日常的なふれ合いに困難性があった。組合の方にもむつかしい点があろうが、ぜひ民泊は復活してもらいたい。

組合員、主婦との本当の交流がほしい

四山地区

（参加者＝小学生二十三名、中学生九名）

一、夏期対策の位置づけが下部まで撤底されていない。これは総括会議には五名、交流会には六名の親しか参加しなかったことからもうかがえる。

組合員が運動として考えずに、子供をあづけるとしか考えていないのではなかろうか？ 三池の子供の数はたしかにへっているし、六〇年の三池闘争当時のような重要さはなくなっているのかもしれないが、問題意識だけはなくさないでほしい。

二、民泊をせず本部泊りだったことは、主婦会や組合員との交流を上べだけのものにおわらせたようだ。昨年は全期間民泊だったので闘いの歴史もよく聞けたが、今年はそれもできなかった。

子供たちとの接触も限定されてくる。昨年は子供たちと夜も話せたし、家庭環境などもつっこんで話ができた。

三、学生側の問題意識もバラバラなので、事前に統一すべきである。

企画には学生の参加もほしい

臼井地区

（参加者＝小学生四十四名、中学生一名）

一、学生の方の目的がついに不明確なまま終った。だから子供たちに接するときも仲間意識をつよめたり、リーダー養成に重点をおくのか、勉強会なのかが不明確であった。今後はぜひスッキリさせるべきである。

二、昨年や今年の経験をもって来年の企画にはぜひ学生を加えてもらいたい。小学生の場合、一年生から六年生まで一緒に勉強をみるのはムリだが、仲間意識を育てたり、リーダーを養成するにはいいと思う。

三、小学生の五、六年の子供にはとくに第二組合員の子供に対する感情的な反発がつよいようだ。職場や地域の状況が反映しているのだろうが、中学生になるとうすれるようだ。

× × ×

子供、家庭、地域の日常的な話し合いを

原万田地区

（参加者＝小学生九名、中学生二名）

組合への注文をいうなら、下部まで侵透する討論を十分にしてもらって、夏期対策の意義について意志統一をしてもらいたい。

原万田は実施が直前に決まったらしく、体制も十分ではなかったが、地域分会の人たちに夏期対策をやってみてよかったと思われるようにと、一生懸命やってきた。この目的だけは果せたと思う。

二週間の期間だけでは、子供の教育も集団生活の訓練も不十分なものになってしまうので、地域分会の運動として日常的な接触を子供たちとつづけるべきであろう。

宮原地域での学習会

自主的な子供会づくりへ

万田地区

（参加者＝小学生二十三名、中学生十名）

一、期間中、子供たちの中に仲間意識や連帯感をつくり出すことを目的にしてきた。われわれが帰ったあとも、自主的に子供会をつくる方向へいろいろと努力をしてきた。

しかし、父兄の中にはこの学習会を学習塾みたいに考えている人もいる。地域分会や主婦会で意志統一をして、ぜひこのような方向を生かしてもらいたい。

二、地域の総括会議で出たことは、やってよかったという意見が圧倒的だった。意見としては、小学生、中学生をわけること。学生は途中で交替してもらいたくない。期間を考えてもらいたい（中学生は前半はクラブ活動などで出席できない人が多いので）が出された。

学生の方からは、学生数が不足する。もう一、二人ほしい。小学生は根気がないようだ。もっと粘りづよい気持をつくる教育を。方針がまちまちだった——などという反省が出されている。

三、来年の課題として、つぎのようなものがある。

①万田地区については、場所がせまい。学生の人数をふやすこと。低学生、高学生の分離をすること。子供の教育をどうするかについて、執行部と下部のズレがないよう十分に話し合ってもらいたい。なるべく対策の初期に子供、父兄、学生との話し合いの機会をもってもらいたい。

②全体的なやり方としては、私たちは本部泊りの方がいいと思う。理由は、学生間の交流と討論が十分になされるからである。しかし夜の討論は毎晩やられたが、子供にどう接するかということについてが中心であり、三池の労働運動と学生運動の意識的なかかわりをどうするかというような討論はできていない。

もっと学生が参加する意義を、三池の方も学生の方もはっきりさせるべきである。

子供の教育もっと重視を

緑ケ丘五地区

（参加者＝小学生十五名、中学生一名）

一、親の方に、学生と一緒にこの期間子供の教育にあたろうという真剣な態度がない。学生さんありがとうと感謝されはするが、そのウラにはこの期間中は学生に子供をあづければいいという安易な気持になっている。

二、目的について執行部と下部とにズレがあり、その間で学生の問題意識だけが空まわりしている。三池の運動をすすめる上で、子供の教育は重要な部分であるということを位置づけてもらいたい。十三日間に三回組合員との交流があったが、参加者が少ないのは残念だった。

三、子供たちの意見としては、始まりの時間を早くしてもらいたい。（六時半のラジオ体操から九時半の開始まで時間がありすぎる）期間を長くしてもらいたい。などが出ている。

組合運動の一部として位置づけてもらいたい

緑ケ丘七地区

（参加者＝小学生二十七名、中学生一名）

一、子供は積極的に参加してきているようだが、親の態度は昨年にくらべてあまり進歩がないようだ。このような児童対策が組合運動の一環として身を入れてとりくまれないと、二週間のこの対策が実を結ばないのではなかろうか？

二、複々式教育で技術的にはむづかしかったが、団体生活や集団の規律を育てるためにはよかったと思う。高学年がまじめにやれば低学年も静かに遊ぶし、六年生が計画をたてて全体でやらせるという方向が出てきていた。

三、民泊を復活してもらいたいという意見が多いが、学生間で三池の問題を話し合う場も大切だと思う。このような合同合宿は民泊の数をふやした上で残してもらいたい。

反省を生かして

地域からの総括はじまる

成功のうちにおわった今年の夏期児童対策は、上に紹介したように学生からの貴重な意見が地区ごとに出されている。

三池労組はこのような反省を、地域分会、主婦会運動の中に十分生かして、来年の夏期対策をむかえるように総括をはじめた。

子供の教育を、三池の組合、主婦会運動の中に、いまいちど大きく位置づけて考え直し、地域運動をつくり出すことが追及されている。

〈時のことば〉

労仂力統制の復活

労働力誘導政策

労働力不足のなかで、重点産業に労働力を集めようと、労働省は七月三十日構想をまとめました。対象産業は、鉄鋼、電力、化学、医療など十二業種。これは戦前の労働力統制の復活です。これらの産業に人が集まらないのは労働条件が悪いからです。